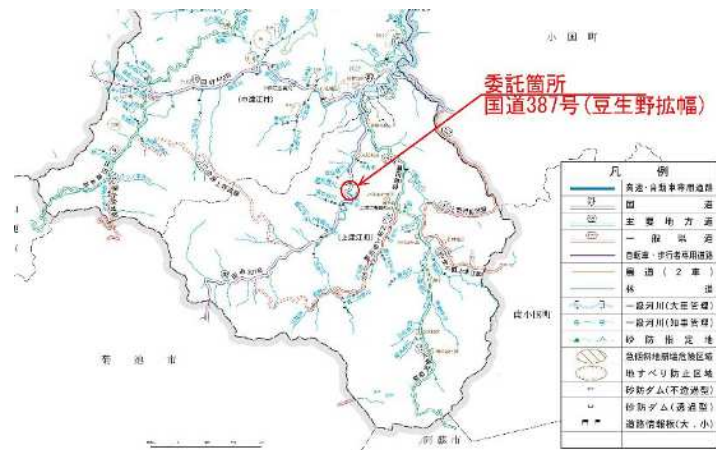


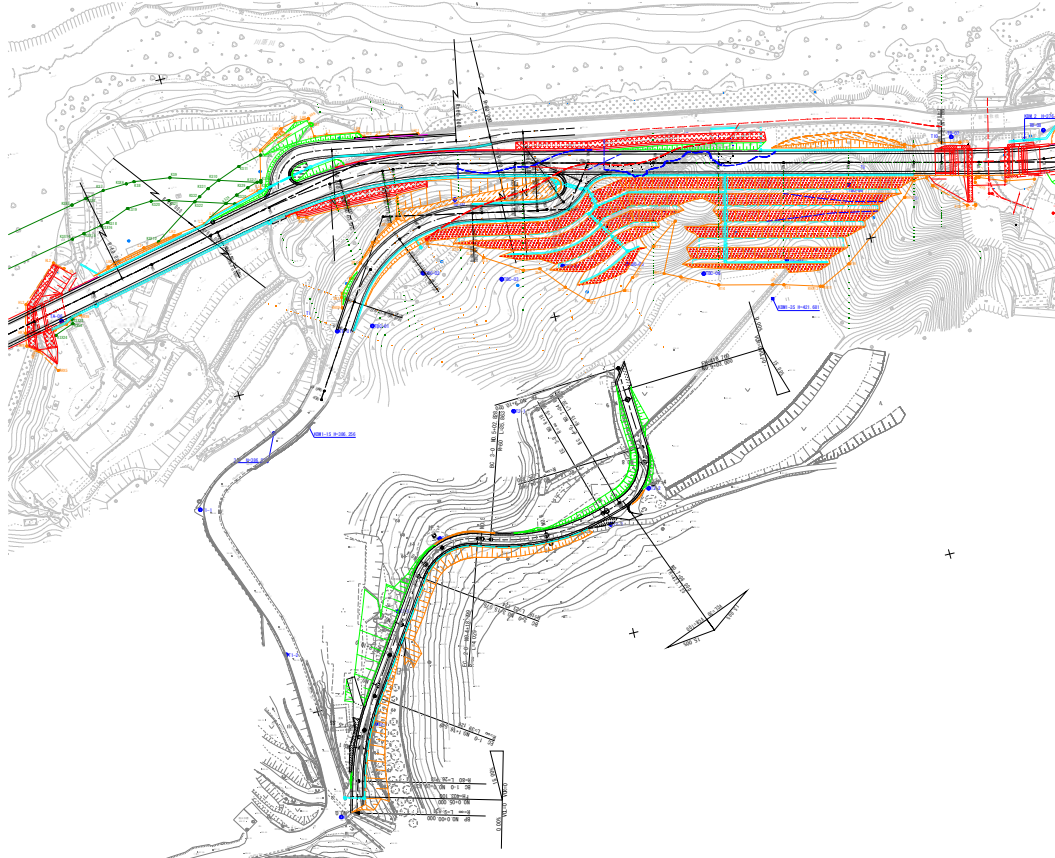
位置図



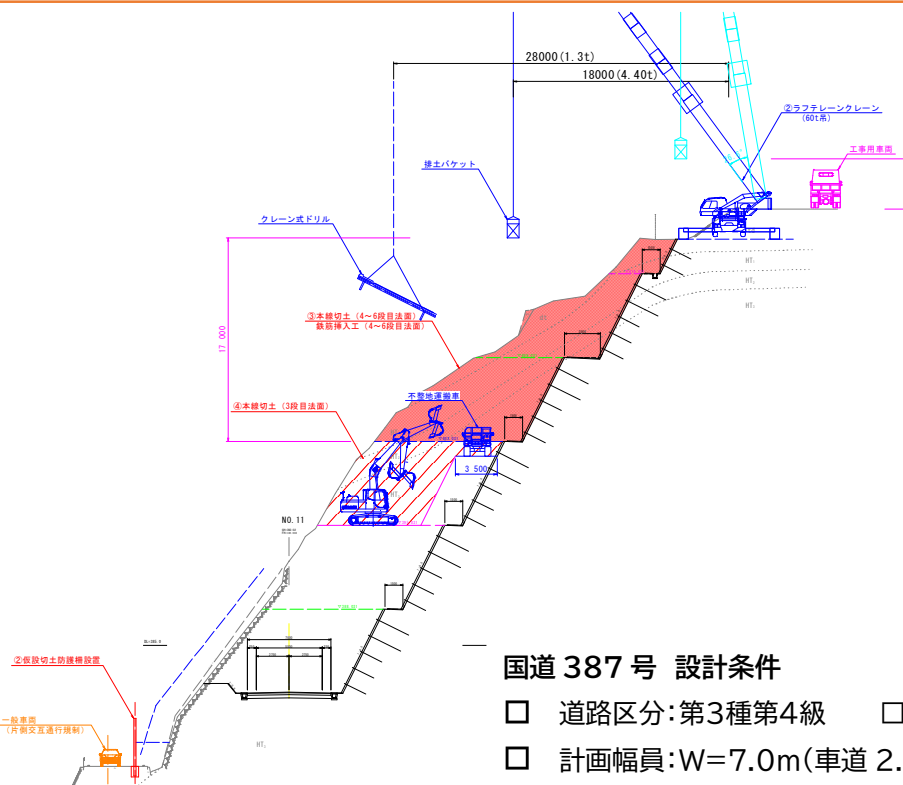
主な課題・制約条件(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 施工時、市道および工事用道路は、一般車両と工事車両が混在して供用。
- 一次施工および四次施工では、切土施工が終了するまで建設機械の搬出不可。
- 高い斜面からの土砂落下を防ぐため、排土バケット+クレーンで土砂を搬出。
- 法面端部や No.9 付近は、建設機械を据えることが困難なため、人力施工 or RCM 工法を採用。
- 三次施工の本線切替道路は、W=5.0m で供用するが、大型車交通が多いことから片側交互通行が望ましい。
- 鉄筋挿入工は、一度での掘削可能な段数が不明であり、場合によっては逆巻施工が必要。
- 4 次、5 次施工については、掘削土量が 5,000m³ 以上となる場合でも、現地状況からリッパ付きブルドーザーの搬入が困難であるため、「オープン掘削(軟岩)」の施工機械を「バックホウ 0.8m³+大型ブレーカー」で想定する。
- 現道内に水道管が埋設されているため、仮設切土防護柵などの施工時は、支障の有無を試掘など行い施設管理者と調整が必要。

平面図



標準断面図



国道 387 号 設計条件

- 道路区分:第3種第4級 □ 設計速度:V=40km/h
- 計画幅員:W=7.0m(車道 2.75m, 路肩 0.75m) 歩道なし

施工者からの意見および対応方針

○改善事項

- ・ 特になし。

○確認事項

■仮設防護柵

(施工者からの意見)

- ・ 現況地形が急であり、現在計画されている仮設切土防護柵高(h=4m)では、施工時の落石対策として不十分ではないか。また、仮設防護柵施工時に現道交通確保が困難と思われる。

(対応方針)

- ・ 現況斜面の浮石の状況調査、斜面途中の防護ネット設置、設置済である落石防護ネットの利用を含め仮設計画の見直し検討を視野に入れる。
- ・ 現道の交通規制の条件(夜間通行止めの可否等)を整理する。

■水道管および電線の移設

(施工者からの意見)

- ・ 県道・市道ともに仮設切土防護柵の設置位置に水道管の埋設が確認され、施工時の支障となる。
- ・ 県道の現況斜面沿いに電線があり、施工時の支障となる。

(対応方針)

- ・ 事前にそれぞれの施設管理者と移設に関する協議を進める。